

令和 7 年度

「運営に関する計画」

大阪市立長谷川中学校

令和 7 年 5 月

現状と課題

- 本校は、大阪市こども相談センター及び南部こども相談センターより措置され、児童心理治療施設である大阪市立長谷川羽曳野学園に入園している生徒が通学している学校である。
- 生徒は、全員厳しい家庭状況にあり、成育歴から見ても家庭教育が十分になされておらず、社会的・知的な発達が遅滞傾向にある。また、情緒的にも不安定な生徒がほとんどである。
- 生徒は本校への転入までに家庭での学習機会がほとんど得られておらず、また運動の機会にも恵まれておらず、学力的・体力的に極めて厳しい状況にある。

さらに、道徳的判断力や社会性・協調性などの面での課題もある。そのような現状から、将来の自立に向け、自尊感情の醸成、基礎的・基本的学力の定着とともに基本的生活習慣の育成と自ら学ぶ意欲の育成に力を入れ、たくましく生き抜く子を育てるために、大阪市立長谷川羽曳野学園と一緒に情報共有・行動連携を進め、きめ細かな指導を続けていく必要がある。

中期目標

【安全・安心な教育の推進】

- 年度末の校内調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を80%以上にする。
- 年度末の校内調査において、不登校生徒の在籍比率を前年度より減少させる。
- 年度末の校内調査において、前年度不登校生徒の改善の割合を増加させる。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- 年度末の校内調査における「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を80%以上にする。
- 中学校チャレンジテストや大阪市英語力調査に対しては、本校は児童心理治療施設からの生徒のみが通学するため生徒数が全学年で1名～6名であり、さらに短期入所で入れ替わりもあるため、母数で割る平均的な算出は意味をなさない。そのため、全生徒の経年比較において正答を1Pでも上回ることを目標とする。
- 年度末の校内調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」を回答する生徒の割合を60%以上にする。

【学びを支える教育環境の充実】

- 授業日において、生徒の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の75%以上にする（ただし、事務局が定める学校行事等ICT活用が適さない日数を除く）。
- 第2期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準1を満たす教職員の割合を、60%にする。

【安全・安心な教育の推進】

- 年度末の校内調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「そう思う」と回答する生徒の割合を80%以上にする。
- 年度末の校内調査において、不登校生徒の在籍比率を前年度より減少させる。
- ストレスを感じやすい生徒のために、PBS（ポジティブ行動支援）を指導の軸に置き、

3 本年度の自己評価結果の総括

--

大阪市立長谷川中学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【最重要目標1 安全・安心な教育の推進】</p> <p>○年度末の校内調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「そう思う」と回答する生徒の割合を80%以上にする。(施策1-1-1)</p> <p>○年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を前年度より減少させる。(施策1-2-7)</p> <p>本校の独自目標</p> <p>○生徒全体の指導方針としてPBS(ポジティブ)行動支援を取り入れ、肯定的行動のある学校を創造する。</p>	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向1、安全・安心な教育環境の実現】</p> <p>いじめへの対応：ピア・サポートの活動を通じて、自分や他人を大切にする。(適切な言葉づかい)等、違いを理解し互いに支えられる集団を造ることはいじめ0を目指す。(生活指導健康教育部)</p> <hr/> <p>指標 年度末の校内調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を80%以上にする。</p>	
<p>取組内容②【基本的な方向1、安全・安心な教育環境の実現】</p> <p>防災・減災教育の徹底：安全教育指導や避難訓練を実施する。(生活指導健康教育部)</p> <hr/> <p>指標 計画に基づいて年4回以上実践する。</p>	
<p>取組内容③【基本的な方向2、豊かな心の育成】</p> <p>キャリア教育の充実：職場体験(見学)、キャリアパスポートを活用し自らの進路について考え、自立した生徒を育てる。(進路委員会)</p> <hr/> <p>指標 年度末の校内調査において、自分の進路について真剣に考えている生徒を3年生までに80パーセント以上にする。</p>	

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
次年度（後期）への改善点

大阪市立 長谷川中学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成 状況
<p>【最重要目標2 未来を切り拓く学力・体力の向上】</p> <p>○年度末の校内調査における「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を80%以上にする。（施策4－2－13）</p> <p>○中学校チャレンジテストや大阪市英語力調査に対しては、本校は児童心理治療施設からの生徒のみが通学するため生徒数が全学年で1名～6名であり、さらに短期入所で入れ替わりもあるため、母数で割る平均的な算出は意味をなさない。そのため、全生徒の経年比較において正答を1Pでも上回ることを目標とする。</p> <p>○年度末の校内調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」を回答する生徒の割合を60%以上にする。（施策5－1－16）</p> <p>○各教科等における言語活動の充実を図りながら、図書室を効果的に利用する。 （年度末の校内調査において、「読書をすることは好き」と肯定的回答をする生徒の割合を80%にする。）</p>	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向 4、誰一人取り残さない学力の向上】</p> <p>言語活動・表現力等の育成、主体的・対話的で深い学びの推進：</p> <p>① 少人数の学習形態を生かし個に応じた指導を実施し、学習効率を高める。</p> <p>学力向上に関する取り組みを教務部から提案・実施し、生徒の理解に努める。</p> <p>(教務部)</p> <hr/> <p>指標 中学校チャレンジテストで、全生徒の経年比較において正答を 1P でも上回る</p>	
<p>取組内容②【基本的な方向 4、健やかな体の育成】</p> <p>読書活動の充実： 朝読書や授業での図書貸し出し、昼休みの図書開放などを通じて、図書室を活用する。(教務部・図書委員会)</p> <hr/> <p>指標 年度末の校内調査において、「読書をすることは好き」と肯定的回答をする生徒の割合を 80%にする。</p>	
<p>取組内容③【基本的な方向 4、健やかな体の育成】</p> <p>体力・運動能力向上のための取り組みの推進：記録用紙を活用し、生徒自身に成長を気付かせ、少しでもできたという実感を持たせる。</p> <p>(保健体育科・生活指導健康教育部)</p> <hr/> <p>指標 年度末の校内調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」を回答する生徒の割合を 60%以上にする。</p>	
<p>取組内容④【基本的な方向 5、健康教育・食育の推進】</p> <p>健康教育：自らの身体や健康に対する関心を高めるため、年 3 回発育測定を実施する。毎月の保健だよりに加え、検診や行事前、また感染状況に応じ臨時号を発行し、生徒や保護者に対して健康意識を促進するため情報を提供していく。</p> <p>食育：1 月の全国学校給食週間に合わせ、食に関する保健指導等を実施する。</p> <p>(生活指導健康教育部)</p> <hr/> <p>指標 学校アンケートで「健康的な生活習慣（早寝・早起き・朝ごはん・歯みがき等）を心がけていますか」の項目について肯定的に答えた生徒の割合を 80%以上にする。</p>	

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
次年度(後期)への改善点

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成 状況
<p>○授業日において、生徒の 8 割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の 75%以上にする（ただし、事務局が定める学校行事等 ICT 活用が適さない日数を除く）。</p> <p>○第 2 期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準 1 を満たす教職員の割合を 80%以上にする。</p>	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗 状況
<p>取組内容①【基本的な方 6、教育 DX(デジタルトランスフォーメーション)の推進】</p> <p>1 人1台端末の環境を生かし、個別最適な学びと共同的な学びを実現：</p> <p>授業日において学習者用端末を毎日使用し、スクールライフノートの活用により生徒の心の状態や日々の状況を可視化し、いじめ・不登校などの未然防止・早期発見・迅速な対応する。（学校行事等 ICT 活用が適さない日を除き毎日活用する）（教務部・ICT 担当）</p> <hr/> <p>指標 授業における学習者用端末の使用率を 80%以上にする</p>	
<p>取組内容②【基本的な方 6、教育 DX(デジタルトランスフォーメーション)の推進】</p> <p>スクールライフノートの活用した、生徒理解の推進：1 人1台端末の環境を生かし、個別最適な学びと共同的な学びを実現する。（教務部・ICT 担当）</p> <hr/> <p>指標 学校行事等 ICT 活用が適さない日を除き毎日活用する</p>	
<p>取組内容④【基本的な方向 7、人材の確保・育成としなやかな組織づくり】</p> <p>働き方改革の推進：</p> <p>①長時間勤務の解消に向けた意識醸成を図るため、退勤目標時刻を設定するとともに、時間外勤務時間の状況について、毎月教職員に個別に通知する。</p> <p>② 夏季休業及び冬季休業中の学校閉庁日を、年間 5 日以上設定する。（管理職）</p> <hr/> <p>指標 「学校園における働き方改革推進プラン」における教員の勤務時間の基準を満たす教員を 100%にする</p>	

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
次年度（後期）への改善点